

## 天辻峠 かつては旅館・問屋が立ち並んだ交通の要衝

8月12日、最も長いバス便として知られる「八木発新宮行き」に高田市駅バス停で9:34乗車し、「星の国」で11:20下車。道の駅付近から旧国道を黙々と上る

### 天誅組本陣跡

山間とは言え、炎天下の舗装道路からの照り返しがイヤになるころ、「天誅組本陣跡」に着いて休憩。

明治維新に先駆けて討幕運動に決起した天誅組。文久3(1863)年五條代官所を襲撃した後、高取城攻略に失敗して敗走、交通の要衝、ここ天辻峠(天の川辻)に本陣を置いた。村は人と財とで天誅組を支えたという。

### 路傍の各所にヒオウギの花

旧国道をさらに上る。沿道の空き地や林縁にヒオウギが群れて咲いている。1m近く花茎をまっすぐ伸ばし、その上に黄赤色の六枚の花被片を水平に開いて、降り注ぐ陽光を受け止めている。花被片には赤い斑紋がちりばめられている。勢いと気品がある。



↑ヒオウギ(檜扇)

### 標高790mの天辻峠

やがて、天辻峠跡に到着。痛んだ案内板が、打ち捨てたようにおいてあり、それによると街道の交差点であるここには、時に100軒を超える旅館や問屋が立ち並び、物資の集散地として富も人も集まったという。奥吉野では大きい集落だったろう。

道から少し降りたところに石碑が建っており、そこには「右五条・下市 左ふき・はし本 道」と刻まれている。「ふき」は現和歌山県高野町富貴の事で、この峠の別名が「富貴峠」と呼ばれるゆえんである。高野山参りの宿場町でもあったのだ。

### 花と虫に癒されながら

快晴はなにより嬉しいが、午後になって陽射しは容赦のないものに。通り抜ける涼風にマツカゼソウが白い花をそよがせ、マルミノヤマゴボウが真っ赤な花(序)を上には伸ばして、陽光をはね返している。

また、アゲハチョウやルリタテハ、アカタテハ、ヒョウモンチョウなどが飛び交い、花と虫に元気をもらいながら歩いた。

### ←マルミノヤマゴボウ





## 追悼 松尾治

「縦走者 南アルプス烏帽子岳・10月」と銘打たれた作品。

撮影場所は南アルプスのど真ん中。

モデルとなった林氏は、共に大学ワングル創設以来の弟の岳友。

一週間ほどここにテント泊し、何回も歩かされたそうだ。通夜で思い出を語ってくれた。



## 二上山に咲く花々 46 ヤブラン (藪蘭)

### キジカクシ科ヤブラン属

写真は故澤木仁さん

前号掲載の「ヒメヤブラン」と同科同属。「ヤブラン」の名は「藪に生え、蘭のような葉をもつ」この植物の特徴に由来します。

ヒメヤブランが葉も花も小さいのに比して、ヤブランは艶やかな濃緑色の葉が50cm近くまで伸び、美しい紫色の花をびっしりと付ける花序は10cm前後にもなって、否が応でも目立つ存在です。

それだけに盗掘に遭うのか、二上山でもめっきり少なくなりました。多くの登山者が、哀しく、腹立たしい思いをしているでしょう。

盛夏から秋にかけて咲き続け、花の後にみのある実は丸く黒紫色に輝き、野鳥たちの大切な食料。

ヒメヤブランともども、風邪の咳止めなどの薬としても活用されてきました。

“無住寺となりて藪蘭ばかりかな”(田原憲治)をはじめ寺社の庭との関連で、多く詠まれてきましたが、やはり、ヤブランは野山の林下で木漏れ日を浴びて輝いてほしい。

大切に、大切に見守り続けてほしい。

